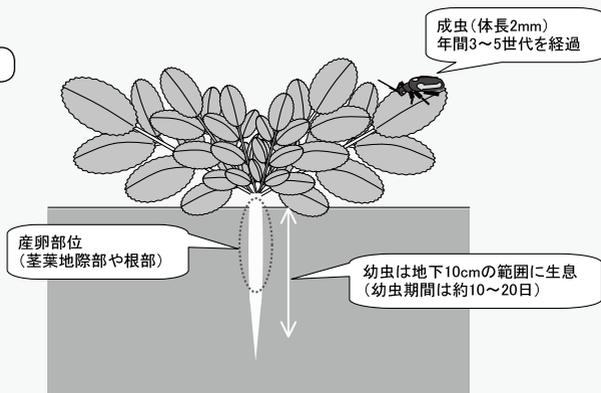


ダースバン粒剤技術情報

だいこんを加害するキスジノミハムシ、タネバエの生態と防除

【キスジノミハムシ】

生態と被害



アブラナ科植物のみに寄生し、アブラナ科野菜を連作すると発生量が多くなる傾向にあります。成虫はダイコンの本葉がスタートしてから食害します。食害痕は1mm前後の丸形で、葉が生長すると裂孔状になります。幼虫による根部の食害は、初期生育を阻害したり、根部表面に食害痕を残したりするので、商品価値を低下させます。

防除

本剤9kg/10aを、は種時に播溝土壌混和処理します。また、成虫に有効な茎葉散布剤を用いて発芽後1~2回程度体系防除すると、より効果的です。

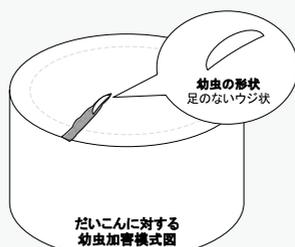
【タネバエ】

生態と被害

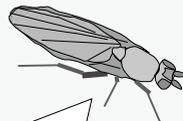
ふ化幼虫は土中に潜り、種子の子葉や初生葉を食害するため、発芽できずに腐敗し、出芽しても奇形となります。通常、幼虫の食入位置は地際部から深さ5cmまでですが、ダイコンの生育ステージなどによりさまざまな位置に食痕ができ、根の表面に対してほぼ直角に食入します。

防除

本剤を6~9kg/10aを、は種時に播溝土壌混和処理します。また、未熟堆肥や鶏糞などの臭気の強い有機質肥料は成虫を誘引するので、は種時には使用せず、は種前に施肥するなど、使用時期をずらすことをおすすめします。



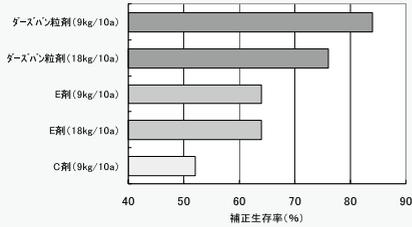
タネバエ成虫イメージ(体長5mm)
湿り気のある土壌の間に、
長径約0.6mmの長楕円形をした
卵を点々と産み付ける



魚粕、大豆粕、鶏糞、未熟堆肥などの有機物の腐敗臭に誘引されるため、これらを施用すると産卵されやすくなります。

有用生物に対する影響 (ミミズ)

ミミズに対する影響



平成 10 年 サンケイ化学株式会社 社内試験
試験場所：埼玉県深谷市幡羅町
：サンケイ化学(株)研究室
供試虫：シママミズ
処理方法：1月13日所定量の薬剤を土壌と混和し、ミミズを放虫
調査方法：処理7日後(1月20日)にミミズの生死を調査



だいこんの
キスジノミハムシ
タネバエ

かんしょの
コガネムシ幼虫
ハリガネムシ幼虫

の防除に！